

平成28年度(2016年度)宝塚市きずなづくり推進事業結果評価表

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
1	(3回目) 大堀川さくらの会	50,000	<p><実施時期・場所> 大堀川桜並木道花の開花時期の3月30日～4月10日</p> <p>今年度は、上流の西の町橋近辺の桜も10年を迎え、提灯、灯光器によるライトアップの点灯又、対岸の灰やも撤去されたポケットパークとして、お花見を楽しんでいただくことが出来ました。</p> <p>今年度で「きずなづくり推進事業補助金」も最後となり、より一層の癒しの場との思いで野点傘を購入し、お花見の雰囲気づくりに役立たせていただきました。3年間ありがとうございました。</p> <p>次年度も、宝塚の名所となる機会場の整備、清掃に努めて参ります。 お茶席、ぼんぼり、短冊及びお茶のおもてなし等の旬日に男子4名、女子28名</p> <p>今年度のお花見参加人数 約2000人(夜桜含む) 高齢者施設 5施設 保育園 1園 障がい者施設 2施設</p>	<p>1)地域住民の皆様との交流、市内、外の皆様に宝塚市活性化の取り組みである者、事、場の場所として多くの方々に知って頂けたと思います。</p> <p>2)ボランティア活動の推進、参加者の募集</p> <p>3)市内の高齢者施設、障害者施設の方々とお花見参加を頂き喜んで帰られました良い思い出と成られたでしょう。</p> <p>4)近隣のリハビリテーションの患者様におかれましても良い環境の下で散策を楽しまれております。</p> <p>5)今年は、桜の開花が遅れ、また、雨の日が多く心配しましたが、4/4位から開花も進み、観桜客の流れが多くなりました。ライトアップ点灯時から夜桜を楽しめる方がおおくおられました。開花が遅れた分例年になく綺麗な花を咲かせたようです。(皆様方の感想)</p> <p>6)上記の事業により多くの人の流れを生み宝塚市の管区の散策路として生かされます。我々会員も日頃努力を重ね整備してまいります。</p> <p>7)上流の(西の町橋近辺)の、桜も大きく成長し、見頃を迎えたころには、提灯、灯光器によるライトアップで夜桜を楽しんでおられました。</p>	(市民協働推進課) 桜の散策路として、地元をはじめ、近隣施設利用者の皆さんや地域外の皆さんが多数参加されました。桜を見ながら交流を深められていると感じており、地域の方々のきずなをつくっている点で、非常に意義がある事業だと思えます。今後もさくらまつりの魅力を一層と高め、地域にとっての光となるよう期待しています。	地域の皆さんが力を合わせ、大堀川さくらの会を地域事業として定着、発展させられたことを高く評価します。さらに、日ごろから地域住民の皆さんが開催場所の環境整備に尽力されており、頼もしく思えます。宝塚の名所となるよう、今後の発展を期待します。
2	(2回目) 一般社団法人宝塚青年会議所	281,000	<p>実施時期 2016年8月7日～8月8日 場所 和歌山県立白崎青少年の家 回数 1回 参加予定人員 中学生18名 団体メンバー13名 計31名 内容 海、山のフィールドを活かし、フィールドサーチ、野外調理、梅ジャム・棒巻きパン作り、キャンプファイヤー、地引き網などを体験して頂きました。単純な体験ではなく、プログラムごとに班長を決め、参加者全員が交代で班長を経験するように役割をつくりました。班長と班員の両方役割を経験することで、全参加者が立場を理解し積極的に自分を表現し、周囲を牽引する機会となります。本セミナーへの参加を通じ、リーダーとなりうる青少年を育成します。また、本セミナーへの参加を通じて得た経験や感想をまとめ、効果を波及させるため市内中学校全校へ報告チラシを作成し配布いたしました。</p>	<p>・初めて会った同世代の市内の中学生同士が交流し仲間づくり・きずな作りができた。</p> <p>・市内参加中学生全員が班長を体験することで率先してリーダーとしての立場を体験できた。</p> <p>・班長と班員を経験することでそれぞれの立場での物事の考えかたを学んだ。</p> <p>・地引網で獲った魚の調理、本場和歌山の梅をつかったジャムづくりなど市内では体験できないプログラムを実施できた。</p> <p>・わが町宝塚の同世代との交流や、本セミナーの学んだ事の感想をチラシとして市内全中学校へ配付することで得た学びの効果を波及させる事ができる。</p> <p>・報告チラシ裏面に記載のとおりほとんどの参加者から「行ってよかった」「来年も参加したい」との声を頂いております。</p> <p>・遅くなりましたが、活動DVDを12月16日に発送したところ、早速保護者の方々からも 改めて感謝のお言葉を頂戴しております。</p>	(学校教育課) 日常生活から離れた大自然の中において、学校以外の集団での集団行動や野外行動を経験することは、人と人とのつながりの大切さ、自分や他人の命の大切さを学ぶ機会として意義あるものと考えます。各グループでのリーダー体験を通して、中学生である自分が地域の中でどのような役割ができるかを考え行動する中学生の育成に寄与しています。	他校の生徒と一緒に集団生活をするという貴重な体験を通じて学ぶことも多かったと思えます。また参加できなかった生徒にも効果を広げるために報告チラシを作成、配布されたことを評価します。前年度と同様、参加人数が限定的であることから、参加人数の増加の手段を検討し、報告する機会を持つなどの工夫を期待します。
3	(2回目) 宝塚保養キャンプ実行委員会	300,000	<p>2016年7月10日(日)夏キャンプへむけた「重ね煮」調理講習会 会場:宝塚市立西公民館 参加者:6名(宝塚市民5名)</p> <p>2016年8月7日(日)「避難者の声を聴く学習会」・「第9回宝塚保養キャンプ」報告会・ボランティア説明会 会場:宝塚市立西公民館 参加者:21名(宝塚市民15名)</p> <p>2016年8月18日(木)～24日(水) 第10回・宝塚保養キャンプ(6泊7日) 宿泊場所 高野山真言宗西光院 参加者:福島県などからの子ども12名・大人2名 ボランティア139名(宝塚市民79名) 内容:良元小学校育成会との交流 宝塚・市民プール 盆踊り参加 自然散策 ザリガニ釣り 公園で遊ぶ バーベキュー 等</p>	<p>・蔵人共同浴場(ほっこり湯)において入浴することで、地元住民から参加者の子どもたちが歓迎され、交流を深めることができた。</p> <p>・宝塚市立良元小学校育成会との交流を通じて、被災地と宝塚の子ども達と一緒に踊ったり遊ぶことで心の繋がりを築けた。</p> <p>・8月20日の小林の盆踊り参加して、櫓から「保養キャンプに参加されているお子さんも参加されています」と紹介されるなど、地元住民との交流ができた。</p> <p>・「避難者の声を聴く学習会」において、防災の意識をボランティアをやるうとする人々に持たせることができたと思う。また「学習会」や「調理講習会」によって宝塚市民にたいして、保養キャンプの周知と理解を深めることができた。</p> <p>・参加者の子どもたちやボランティアが「防災かるた」をやることを通して、遊びながら防災の意識を学ぶことができた。</p> <p>・保養キャンプに参加した子どもたちや保護者が放射線を気にせず自由に伸び伸びと外遊びや行事に参加することができた。</p>	(学校教育課) 福島原子力発電所の事故で被曝を受けた子どもたちとその家族が、宝塚の地において、安全な食事をしたり、宝塚の子どもたちと交流したりするなど、放射線を気にせず自由に伸び伸びと活動できたことは、たいへん意義のあるものだったと考えます。この活動を通して、さらに市民の理解が深まり、地域で協力し合う体制づくりにつながることを期待します。	被災地域の子どもと宝塚市の子どもとの交流が行える事業として貴重であり、被災者の心身の保養とともに、市民の防災意識の向上に寄与していることを評価します。支援者の輪も広がっているようですので、継続的な活動として定着することを大いに期待します。

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
4	(1回目) デフ・パペット シアター・ひと み宝塚公演実 行委員会	300,000	<p>5月30日～9月23日 実行委員会6回開催 場所:市内飲食店、男女共同参画センターなど 参加者:実行委員10名・劇団製作スタッフなど 内容:当日までの企画運営・広報媒体作成・チケット作成管理・組織に関すること等を協議 その他:会場下見、打ち合わせ、出演予定者(オープニングアクト)公演視察などのイベント</p> <p>10月1日(土)13:50～ デフ・パペットシアター・ひとみ宝塚公演「森と夜と世界の果てへの旅」 会場:アピアホール(宝塚市逆瀬川1丁目) 出演:デフ・パペットシアター・ひとみ、ラ・オロケナ(オープニングアクト) 来場者:約230名 チケット:大人(一般2500円、早割2000円)小人(一般1000円)</p>	<p>①実行委員会による広報の成果もあって、宝塚北高校演劇科の学生をはじめ、若者子どもを含む老若男女幅広い層のお客様を迎えて、満員の会場で熱気のもった公演を実現できた。 ②当日の司会進行は、宝塚ろうあ協会の加藤さんが手話で務め、手話通訳者(音声通訳)、要約記者の協力を得て情報保障を行った。また実行委員会代表(車いす生活者)のあいさつも含めて、コミュニケーションのバリアフリーが実現した場を協力して創り上げることができた。 ③会場内ロビーでは、宝塚ろうあ協会や宝塚市手話サークル連絡会の協力により手話体験コーナーを設置したほか、福祉作業所の製品を活用した公演グッズを販売する物販コーナーも、大勢の来場者楽しんでいただいた。 ④実行委員会の会議も、常にろう者と聴者が混在していたので、手話通訳者を依頼してコミュニケーションを図り、福祉活動と地域経済活動という普段は接点の少ない当事者が、真剣に一つの事業に取り組む機会を創出した。また、当日の会場設営なども多くのボランティアスタッフの協力を得て、コミュニケーションのバリアフリーを図る良い機会になったと思う。 ⑤劇団員には、ろう者と聴者が混在していたが、見ている方には全く違和感がなく、「誰がろう者か聴者か?」という問い自体が無効になる表現世界だと感じた。観ていただいたお客様にとって、どのような印象が残ったのか、アンケートを取り損ねたことは惜しいことであった。</p>	<p>(障害福祉課) この度の事業は、ろう者の方と健聴者が共に出演し、セリフは少なめで、音楽が太鼓のように視覚や振動で伝わるように工夫された人形劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」の公演や手話体験コーナーなど、催しを通じて、障がいのある方や障がい者団体の方々が、地域の皆様と交流・親睦を図り、相互に人格及び個性を尊重し、心豊かに共に生きる地域社会の実現につながる有意義な事業であったと考えます。</p> <p>事業の実施にあたり、携わられた関係者の方々が、障がいや障がいのある方に理解啓発を推進され、市民と共に手話への理解や手話を使用しやすい環境づくりの推進に向けて取り組まれた成果と思います。</p> <p>今後も、障害がある者の人権を尊重し、障害の有無にかかわらず、住みよい地域社会を実現に向けて取り組まれることを期待します。</p>	<p>障害の有無にかかわらず、皆で劇をつくり、参加者もいっしょに楽しむということを通じて、ノーマライゼーション理念の普及に寄与していることを高く評価します。引き続き、障がいのある方々がバリアフリーを体感し、心から楽しめる企画の実現に取り組んでいただきたいと考えます。</p>
5	(2回目) エフエム宝塚 835倶楽部	300,000	<p>平成28年度は第1回予選を6月26日、第2回予選10月16日、決勝12月4日に開催。会場は逆瀬川アピアホールで、各回の参加者は106人、92人、122人でした。 審査員は河内厚郎(文化プロデューサー)、青木和雄(FM宝塚パーソナリティ)、太田哲則(FM宝塚パーソナリティ)、須山公美子(宝塚シャンソン化計画代表)、吉永真悟(音楽プロデューサー)、イツセイKAWABATA(ボイストレーナー)、斉田オ(音楽評論家)。</p>	<p>今年度に新設したアニメソング部門では、新たに審査員に音楽評論家の斉田オさんをお迎えし、コスプレなどの衣装で華やかな舞台が展開されました。また、宝塚と関係が深い作詞家・岩谷時子さんの生誕100周年を記念した「岩谷時子特別賞」にも、各部門から幅広いジャンルの曲で応募があり、受賞者は来年度の「宝塚パリア祭」に出場されることになりました。 各部門の最優秀賞には、表彰状の他、宝塚のお米(5kg)、宝塚市内の宿泊券やお食事券、お買い物券などを提供して地域の認知度の向上にも寄与しました。出場者は、宝塚市内からのエントリーが一番多いのですが、他府県からの応募も増えています。これは、大会の存在が広く知られてきたことと、レベルが上がり、他府県からでも挑戦しようとする方が増えてきたことによると思われます。今後も、より多くの方に挑戦していただき、宝塚らしい歌謡選手権を開催し、出場者はもちろん、観客の方にも足を運んでいただけるよう工夫して参ります。</p>	<p>(文化政策課) 新設されたアニメソング部門は手塚治虫に代表される本市の漫画・アニメ文化の発信に、「岩谷時子特別賞」は宝塚と縁の深い岩谷時子さんの功績を再認知することに寄与したと考えます。またシャンソン部門の優勝者が翌年の「宝塚パリア祭」に出演することや、当日の様子をラジオ放送やJ.COMオンデマンドで放送されるなど、音楽を通じて宝塚をPRする良い機会となっています。 今後も、音楽による宝塚の活性化に期待します。</p>	<p>宝塚の知名度を高めるということで事業の効果は上がっていると評価します。しかし、必ずしも市民のエントリーが増えているようではないため、市民の参加についても工夫し、きずなづくり本来の趣旨に合致した取り組みとなるよう努めてください。</p>

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
6	(2回目) にしたによい しよ	500,000	<p>毎月の「にしたによいしよ」の発行とともに、西谷外住民との交流を深めるため、次のような活動を実施した</p> <p>『宝塚市南部及び近隣他都市との交流』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武庫スケッチクラブ(宝塚南部、代表＝田村博美)と西谷探索を通じての交流。「やまもり山里」を散策。7/30、50名。「ダリアの集い」上佐曾利万正寺で音楽祭を聴く。事前に香合新田まで散策。9/24、70名。 「西谷の冬と野鳥観察」波豆八幡神社から普明寺、大原野のコース。「秋の野草に名札をつけよう」9/25、30名。水源地に棲む水鳥を観察しながら散策。終わりに、大原野で参加者に西谷産の焼き芋を進呈。12/11、参加者20名。西谷をもっと知りたい体感したい。「西谷をもっと知りたい体感したい交流会」1/21 20名。 ・ 羽衣会(猪名川町、代表＝岩崎三保)との交流。 <p>野草や野に咲く花の趣味により、以前から西谷に際々足を運ばれていたことから交流を始める。羽衣会の紹介により、5/7、猪名川町にお住まいのプロの太鼓演奏者として有名な「祝丸鼓動」の演奏会を開く。猪名川町にお住まいのプロの和太鼓演奏者として有名な人で、視聴者は100名程。事前に会場(大堂の敷地内)の片隅でお茶会を拓く。6/18、100名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 里山散策 「野草に名札をつけよう」 森本敏一先生を講師に招いて、里山を散策しながら名札をつける。6/18、30名。「秋の野草に名札をつけよう」9/25、30名 「里山、冬の戯れと森の中の七草がゆ(参加者に甘酒を進呈)」1/15、15名。「やまもり山里のぬくもりを感じて」散策がてらに、お茶と節句をたのしむ。15名 ・ 農を語る会 4/10に参加者10名主催者側5名を除く)ほどが集まる。当日は、宝塚南部、北部で既に借地で農業を営む人達、西谷の農業経営者等が集まり、これからの人口減少、高齢化社会に対して、どう対策をとればという内容で議論が弾む。その後は5/8、6/26、7/8、8/7、9/11、10/2、11/6、12/4、1/8、2/12、3/19「農を語る会」の参加者は大旨、10～15名ほどで、年間で約、460名で、他地域からの若年層の人が多い。 ・ 宝塚発達コミュニティ「花」(発達障害をもつお子さんの親と支援者の会)とのコラボイベント、西谷日帰りツアーを実施。「花」の会員を中心とした11家族 約40人が東部仲邸の畑でのイモの植え付け、自然の家で風揚げやウォークラリーを楽しむ。グループ夢の西谷産野菜を使ったお弁当や記念品のダリア石鹸と、食や特産品でも西谷を体感。お子さんもご家族も西谷の自然の中でのびのびと笑顔で過ごされた。ネイチャーゲームの会、約10名のボランティアの方々の協力により無事にイベントを執り行えた。今後も西谷地域を訪れるイベント等の実施により継続的に交流する。 	<p>「にしたによいしよ」発行部数は現在5000部になっているが、配布状況は、北部西谷地域内においては住民全戸約、800部、地域内各施設340(7ヶ所)、他市の施設(猪名川道の駅)100部。</p> <p>宝塚南部においては、市役所の部所9ヶ所に230部、幼、小、中の50ヶ所に1500部、市内各施(県民局を含む)24ヶ所に650部の他、旅館、レストラン(南北合わせ)120部、南北交流会等の参加者等に約500部を配布している。</p> <p>なお、南部の市民の有志が無償のボランティア活動で地区住民が引き受けて下さった方が2名、250部を配布(内、1名は、今年度で高齢のため打ち切り)その他、スタッフの数名がが南北間の交流で会合(趣味の会等)がある度に配布するのが300部。</p> <p>以上の状況を見て、南部における市民団体等のご協力を得ることが出来れば、発行部数の増々の増刷が図れると考えられるが、現時点では、人手(予算節減のため、5000部の印刷物の2つ折りは近くの主婦の方々の自主的なご協力を得ている)</p> <p>これからも、南北交流の輪に広がりが見えてきたのが認識できる。南部だけでなく、近隣の人々とが西谷に深く関わって行くことにより、西谷の人々の意識にも広がりが得られ、次世代に、広がりのある未来をというのが、本誌「にしたによいしよ」の目的として進めていけるだけの成果を得たと思う。</p> <p>西谷地域の課題として、地域の認知度の低さ(知られていない、場所や名称が分からない)があげられる。西谷地域の魅力としての景観や風景、イベント等など南部市街地地域だけでなく、西谷地域内においても知られていないことが多い。今後の西谷地域の発展に欠かせないことは知名度を上げる、情報を発信することであると思う。その点において、「にしたによいしよ」は景観を中心とした西谷地域の魅力を地域内外に発信することで地域の発展に寄与しているといえる。</p> <p>また、情報の発信だけに留まらず、交流会等を実施することで、南部地域の方と西谷地域、西谷地域内の交流の機会を創出している。その交流から、西谷地域に関係する人口の増加へと発展している。にしたによいしよの活動を通じ、西谷地域で農業や地域活動をしたという方々が生まれたことも大きな効果であるといえる。具体的には、来年度に若者1名が移住予定。また、若者を中心とした西谷の地域活性化を目的とした団体も設立予定。</p> <p>「にしたによいしよ」を見て西谷を訪れた、記事に関する問い合わせや、購読の感想などを頂くようになり、地域誌の事業を継続的に続けたことにより「にしたによいしよ」の購読者数が増加していると実感している。「にしたによいしよ」を見て初めて知ったなど、西谷の景観を主とした魅力の発信は西谷の訪問者数の増加や知名度の向上に寄与しているといえる。</p> <p>また、「にしたによいしよ」を見て活動に賛同し、西谷地域内外からの本事業への参加者も増えた。年齢層も老若男女問わず広がりが見える(本事業年度30～50代男性4名、30代～60女性2名増加)。そうした中から交流も増え、そういった点においても本事業の成果であるといえる。</p>	<p>(都市計画課)</p> <p>西谷地域は豊かな自然と山並みに囲まれた田園環境が今も残っており、里山の風景を今なお感じることができる貴重な場所ですが、その魅力についての認知度は市内でもまだまだ低いため、この事業を通じて地元の方のみが知る西谷特有の魅力や景観スポットなどを、月刊誌やホームページを利用して、市内外に発信していただくことで、景観に興味を持ち愛着を深め、自分達のまちを自分達の手で守って行くという取り組みに繋がっていくことを期待していました。</p> <p>月刊誌では、各号西谷地域の魅力を素晴らし写真とともに掲載され、それらを南部市街地市民の協力も得ながら配布部数を着実に増やされ、読者も増加しているようですし、ホームページの開設に加え、フェイスブックも利用し、市内外の多くの方へ西谷の魅力発信する努力をされ、紙面について問い合わせや、紙面を見てイベントに参加される方も増えてきたようです。更に、他の団体や地域の方の協力を経て、イベントや交流会も積極的に開催し、様々なツールを上手く利用して西谷の四季の景観等の魅力を発信された1年間でした。3月には西谷の四季の風景を中心に「宝塚の里山西谷」を冊子として完成させ、冊子を通じて西谷の魅力ある景観資源を発信されています。景観資源発掘事業は、景観を守りたいと思う気持ちや、景観を育てる取り組みへ繋がるような活動を期待していましたので、十分な成果が得られたと思います。</p> <p>編集会議や、月刊誌の二つ折り作業にも参加させていただくなかで、スタッフの皆さんの西谷愛、様々な世代や西谷以外に居住されている方との交流など、景観資源発掘以外の成果についても直に感じることができ、行政としても貴重な体験ができました。今年度築いた人のつながりを活かしながら、今後も西谷の魅力発信し、西谷地域の活性化に寄与して欲しいと思います。</p>	<p>西谷の魅力伝えるために、多大な努力が伝わってきます。事業への協力者も増加しているようで、西谷地域に対する貢献度合いも非常に高いものと評価します。今後も「にしたによいしよ」刊行の継続と西谷地域のPRにつながるバラエティに富んだ活動に期待します。</p>

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
7	(1回目) 宝塚広域ボラン ティア連絡 委員会	234,177	<p>1. 第3回 ご近所の底力 防災・減災取り組み展 【実施時期／場所】 9月3日(土)～9月27日(火)／ぶらざこむ1 9月29日(木)～10月3日(月)／アピア1 【展示内容】 i. 地域などにおける防災・減災の取り組み状況の紹介。ii. 災害情報の収集方法。 iii. 宝塚における災害の歴史資料紹介(新聞記事、写真展示含む) 【参加人員】約500人</p> <p>2. 防災講座の実施 展示会期間中に一般市民向け防災講座の実施 市民のための防災講座 地震・水害に備える～地域防災力の向上～ 【実施時期／場所】 9月10日(土)／ぶらざこむ1 【参加人員】約150人</p> <p>3. 情報交換会の実施 浸水被害、土砂災害地域等、地域の特性や立場に応じた3テーマで情報交換。 ①台風・集中豪雨などによる土砂災害、山崩れなどが想定される地域に必要な備え ②地域住民から見た避難所運営について ③安否確認と避難誘導 【実施時期／場所】 11月5日(土)／ぶらざこむ1 【参加人員】約80人</p> <p>4. 防災・減災を話題にできる懇談会『えらいこっちゃ！でもだいじょうぶ』キャラバンの実施 【実施時期／場所】 平成28年8月～平成29年2月／ぶらざこむ1 【内容】日常、普段の暮らしに「防災・減災」の意識を促す懇談会、話題提供活動 「今ここで地震が発生。さあ、あなたの行動は？」 【参加人員】約50人</p> <p>5. ワンコインコンサート 【実施時期／場所】11月26日(土)／ぶらざこむ1 【内容】宝塚アカデミー音楽団によるコンサート及び兵庫県立宝塚東高校の学生による東北被災地訪問の報告 【参加人員】約150人</p>	<p>五つの取り組みを通じて以下の効果を得た。 1 自主防災会 まち協が取り組む防災活動への参加率を高める。 2 防災活動に取り組むにあたって、自主防災会とまち協の連携を一層高める。 3 地域の防災の取り組み情報を相互に交換することを通じ、地域の防災の取り組みの工夫や 知恵の共有化をはかり防災レベルの向上に資する。</p> <p>取り組み内容 ①防災展示会 展示会場でアピア1を加えたことにより今津線沿線の来場者にPRできた。 企画段階で2会場を前提に呼びかけたことで、新たに今津線沿線の光が丘自主防災会 伊子志自主防災会 ゆずり葉コミュニティなどの参加が得られた。</p> <p>②防災市民講座 宇井忠英先生を講師にお招きし、市民に自助共助の大切さを訴えることができた。 知名度の高い先生をお招きでき、訴求効果を高めることができた。</p> <p>③情報交換会 過去二年は、防災展示会で表現しつづけない地域の取り組みを補足する意味で、展示会参加グループに参加を呼び掛けていたが、今回は各地域の関心に応じた意味で幾つかのテーマを設定しテーマを選択して頂き、全地域に参加を呼び掛けたところ広範囲な参加を見ることができた。またテーマを絞ることでテーマに沿った話し合いが可能になった。情報交換会終了後も情報交換が継続する効果も上がっている。 第一部の取り組み発表に 宝塚第一小学校区コミュニティと中山台自主防災会をお願いしましたが 宝塚第一小学校区の発表はまち協と自主防災会の連携についての課題や、防災訓練への参加者の減少傾向にある各地域の悩みに答える発表となった。 中山台自治会は安否確認と避難誘導についてのプレゼンであったが、災害時要援護者の安否確認と避難がなかなか進まないなか、中山台自主防災会の取り組みには参加者から大きな関心が寄せられた。</p> <p>④えらいこっちゃキャラバン 特に視覚障害者や聴覚障害者など障害者にかかわるグループからの関心が高かった。 地域でなかなか進みにくい災害時要援護者への取り組みに対する糸口が見つかるのではないかと。 一人一人の市民は生活者としての様々な顔を持っているので、その関係を踏まえたアプローチは今後さらに効果が期待できる。</p> <p>⑤ワンコインコンサート 今回は通常のコンサートに加えて宝塚東高校の学生たちによる東北の被災地報告と防災に対する啓発もあり、さらにチラシの配布を広範囲に行ったことで当日の来場者数も多かった。</p>	<p>(総合防災課) 防災講座を宝塚市内在住の防災の専門家を招き開催しました。市内の状況について精通していることから大変分かりやすい講座となりました。防災展示会においては、アピア1に展示会場を加えたことにより、通勤及び通学時の市民が気軽に参加することができ防災力の向上に貢献されました。 また、兵庫県立宝塚東高等学校の生徒による被災地訪問の報告は若者の素直な気持ちによるもので、聴講した大人の心に響くものになりました。また地域の様々な団体間の情報交換会を実施することで、各地域の課題や取り組み、防災活動の情報を共有することができ、広く地域防災力の向上に寄与できたと評価できます。</p>	<p>防災・減災に向けた市民ベースの幅広いプログラムが展開され、参加市民の数からも、市民の防災意識が高まっているのを感じます。今後は本事業が宝塚市の地域団体の防災・減災のロールモデルとして、他の地域団体に拡大するように担当課と連携して引き続き取り組んでいただきたいと思います。</p>

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
8	(3回目) 虹の輪コンサート	300,000	<p>① 南中ソーランと津軽三味線 日時:2016年9月10日(土)13:00~14:30 場所:宝塚市立西公民館 内容:障がい者のグループ「恵美寿」とこども会の「小林エイサー隊」が津軽三味線の「和楽座」と南中ソーラン等の歌と踊りのコラボを演じ、お互いのオリジナルも披露があった。 観客:150人(子供15人)／出演:障がい者30人(子供15人)、地域の人7人(子供2人)</p> <p>② 金子みすゞの心をうたう 日時:2016年11月19日(土)13:00~14:00 場所:宝塚市立西公民館 内容:金子みすゞの詩を歌うフォークシンガー「もりいさむ」と「種まきピアニストりほ」による心にしみる歌(詩)9曲を歌い、最後は「みんなちがって、みんないい」で締めた。 観客:70~80人(子供20人)</p>	<p>① 南中ソーランと津軽三味線 ・コラボする3者が同じ音源のCDを持って練習し、本番の開演前に約2時間のリハーサルを実施。立ち位置や音響・照明の調整を終えて緞帳を降ろして開演を待つ。緞帳が上がるまでの緊張感は、正に一緒に創りあげて本番に臨む醍醐味を味わってもらえたようだった。 ・和楽座の津軽三味線をバックに3者協演の見せ場、「涙そうそう」を恵美寿の歌に小林エイサー隊のリーダーが飛び入り参加で加わる。「島人ぬたから」を恵美寿の歌で小林エイサー隊が踊る。練習の甲斐あって3者の一体感は観客からも感動したとの声を多数耳にした。 ② 金子みすゞの心をうたう ・3年間にわたる「音楽でつなぐきずなづくりコンサート」の最後は、少し趣を変え、直接金子みすゞの詩で語り掛ける形のコンサートにした。最後は我々の望みでもある「みんなちがって、みんないい」を繰り返して歌い、心に刻んでいただけたと期待している。 後記:「南中ソーランと津軽三味線」を観に来られた宝塚すみれライオンズクラブからの依頼で同様のコラボでチャリティーコンサートを実施した(2017/1/22)。感動の拡がりを実感した。</p>	<p>(文化政策課) プロのミュージシャン、障がいのある方と子どもたちが協演し一体となって作品を作り上げたことは、日ごろ文化芸術に親しむ機会の少ない市民に体験や発表の場を提供した点で意義深く、さらに3者の生んだ会場での一体感は、文化芸術活動のもつ人と人をつなぐ力を再認識することのできる事業であったと考えます。</p>	<p>コンサート等、参加することが困難な乳幼児、障がいのある方が、音楽・芸術に直接触れることができる企画として貴重であり、ノーマライゼーションの理念を広める意味でも大きな効果があったと評価します。3回目の申請で今回が最後の補助金対象事業でしたが、今後も継続的な活動を期待します。</p>
9	(1回目) 岩谷時子懂好会	86,111	<p>平成29年3月18日(土)3時~5時 アピアホール 第2回 歌声ひろば~岩谷時子まつり~ 第1部 プロによるミニコンサート 第2部 みんなで歌う 参加型コンサート 宝塚S/パト倶楽部ジュニアクラス 市民劇団BIGMOUSE有志 参加者 69名+α(5人掛け×18卓、立ち見)</p>	<p>・岩谷時子氏の多岐にわたるさ鶴品に触れると共に身近に感じてもらうことができた。 ・聴くだけのコンサートより一体感・満足感が得られた。 ・小学校低学年から最高齢97歳までの市民が同じ目的で集えた。 ・「ありがとう」「楽しかった」「第3回はいつ」という声を多く頂いたことから、今回の内容・形式が市内では新鮮で好感度の高いものであったと判断できた。</p>	<p>(文化政策課) 宝塚市ゆかりの作詞家である岩谷時子さんの作品をプロと参加型の二部構成のコンサートで紹介することで、幅広い年代の市民に楽しんでもらえる事業となったと思われます。 (市民協働推進課) 申請では、5つの事業計画がありましたが、実施できたものは1つのみでした。事業の立案に際しては、無理のない計画づくりが大切であると考えます。</p>	<p>宝塚市と関わりの深い岩谷時子さんを通じて幅広い年齢層の参加するコンサートとなったようで、意義のあった事業だったのではないかと思います。一方で、提案いただいた5つの企画のうち実際に実現した企画が1つであったことから、企画段階において実現可能性を十分に重視して取り組んでいただきたいと思います。</p>

No.	申込団体名	確定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
10	(1回目) 西谷交流促進 実行委員会	500,000	<p>参加者は公募により毎回各テーマごとに募集し、西谷交流体験者の拡充を図る。 7月以降5回シリーズとして活動を実施した。 ・第1回:7/30「西谷の自然を探し食べてみよう」西谷の森公園回遊、大原野の里山で野草・葉草探し、野草などを料理し食べてみる、西谷のクワ茶やドクダミ茶などを飲んでみる他。 参加者:32名 暑い日であったが西谷の森公園展望台から西谷全体を体感し、その後大堂に移動して野草料理やソーメン流しを体験した。みなさん初めての体験者も多くたいへん興味を持って好評であった。 ・第2回:9/24「西谷でダリアとジャズ演奏観賞と散策」上佐曾利でダリア栽培の歴史を勉強した後、香合新田を回遊し、萬正寺でジャズ演奏会を観賞し、特産品のダリア弁当を体験。 参加者:52名 西谷の奥深さや隠れた魅力を満喫し、野ウサギやカワセミに出会った。初めてのダリア弁当やお寺でのジャズ演奏会を観賞するなど西谷のすばらしさを体感した。 ・第3回:10/23「西谷の秋を満喫する」西谷夢プラザ付近で西谷をスケッチし、その後渋柿ぼりの体験と干柿づくり、黒枝豆の収穫体験など。 参加者:51名 芋を使った渋柿採りや干し柿づくり、畑で黒枝豆採りや芋掘りなどを体験し みなさん大変満足し好評であった。とくに渋柿採りはみなさん夢中になっていました。 ・11/5、6の西谷収穫祭に「西谷交流促進実行委員会」として交流促進の一環で活動状況の展示、ガイドマップの無償配布、ガイドブックの販売などを行った。 ・11/20には西谷からの要請で西谷自然観察会を行い、アカハライモリ、ヤゴ類ほか水生昆虫、ヒメカンアオイなどの観察ができた。 ・第4回:12/11「西谷の冬と野鳥観察」波豆八幡神社の歴史・文化回遊、干苺水源池周辺回遊と野鳥観察、普明寺の歴史・文化回遊。大堂で焼き芋体験。 参加者:31名 干苺水源池の野鳥観察と普段入れない尾鳥城跡から水源池の風景を堪能した後、大堂に移動し西谷の里山から枯れ枝や落ち葉などを集め広場で焼き芋体験を行った。西谷の人達の協力で安全にたのしい体験ができ皆さんにたいへん好評であった。 ・第5回:1/22「西谷をもっと知りたい・体感したい」自然の家から猪倉山登山後、西谷の人たちと団らん意見交流会。 参加者:25名 西谷のお茶(ドクダミ、柿の葉、クワの葉、ビワの葉茶)を飲みながら、5回の活動を評価しながら意見交換した。西谷の魅力、今後の交流のあり方、課題、抱負などについて活発な意見交換ができた。 ・以上の活動と平行し、①西谷マップ(A2判両面マップ折り)を編集し計4500部印刷配布した。②西谷を安全に体験し西谷の人々の迷惑にならないよう活動し交流することを目的にまとめ「西谷をたのしむためのまもりごと」(A5判40頁)を編集発行した。500部を無償配布し、次年度以降のきずな交流促進に活用する予定である。</p>	<p>西谷地域は宝塚市にありながら南部市街地との関係は必ずしも緊密ではなかった。しかし、その地域の備える自然や歴史文化資源、人間にかかせない癒しエネルギー、多様な機能と交流環境など宝塚市民にとってはかけがえのない地域である。 今回の事業は西谷が備えるこれらの魅力と底力を市民に知ってもらい、過疎化と少子高齢化がますます進む西谷を外から支えることにつながればと思い実施した。 5回の交流活動とその他の活動を通じて、市民のみなさんに西谷地域のすばらしさは十分認識して頂いたと感じ、今後の交流活動促進への道も見えてきた。 平行して実施した「西谷ガイドブック」発行、「西谷ガイドマップ」の無償配布、「西谷を楽しむためのまもりごと」冊子発行と無償配布なども西谷PRの一環として西谷の人々にも認知され交流促進の有効なツールとなりつつある。 これらの活動を通じてますます西谷応援団が増え、交流と協働による相互扶助による地域づくりが進むことが期待される。</p>	<p>(北部振興企画課) 今年度行われた5回の事業においては、参加者が合計で191名と、市民が西谷について高い関心をもっていることが伺えました。西谷ガイドブックやガイドマップの配布を通し、今回の参加者が今後リーダーとして西谷を訪れてくれると期待できます。また、各団体が一体となって、西谷の魅力発信という目的の下で企画・運営に携わったことから、団体間の連携や、南北住民の個人的なつながりも生まれつつあります。この新たなつながりの効果として、個々人が持つ情報などを共有し、これまでになかった新たな試みが行われていくものと期待されます。 以上のことから、平成29年度末に新名神高速道路(仮称)宝塚SA及び(仮称)宝塚北SIC開業に向け、西谷の魅力発信に大きな成果があった事業と考えます。</p>	<p>新名神高速道路の開業記念に伴った「西谷地域の魅力発信」をテーマにした特別枠で立ち上がったが、5回の活動内容はすべて西谷に住む人達ならではの企画にあふれ、参加者の楽しそうな様子が目に浮かんできます。本事業に参加した方々が、今後も交流を継続され、西谷地域の活性化につながるよう期待します。</p>